

**【提案】**

5年生の学習内容は日本全体を扱っている。中学年の時の学習内容と比べて、幅広く抽象的で、実感を伴わずに学習が進みがちである。そのため、児童が主体的に学習活動に取り組めていないことがある。そこで、総合的な学習の時間での体験活動を効果的に活用し学習を進めていけば、児童が学習内容をより「自分ごと」として捉えられるのではないかと考えた。また、ICT機器も活用し、自分の考えを発信することを行って、児童がより主体的に学習に取り組むことを目指した。



【米づくり体験をしている様子（田植え）】

## 1 実践のポイント

### (1) 米づくり体験を生かした問いを生み出す体験活動の充実

本校は、埼玉県西部にある山間部の小規模校である。米や野菜の生産に携わっている方が多い地域であり、毎年地域の方々の協力のもと全学年で、米づくり体験を行っている。米づくり体験は総合的な学習の時間に位置付けて学習を行っている。児童は、毎年米づくり体験をしているため、稲作についてある程度の知識を持っている。そこで、その体験や知識を生かして興味・関心を引き出し、問いをもたせ学習活動に取り組ませていきたい。また、自分達の体験と米づくりがさかんな事例地とを、比較したり関連付けたりすることで理解を深めることができるのではないかと考えた。

### (2) ICT機器を活用した自分の考えの発信や振り返りの工夫

小規模校の良さを生かし、一人一台のタブレットなどICT機器を活用した。特に、「調べる」場面において、自分の考えを発信したり、振り返りの活動を行ったりすることで、学習内容に対して、より主体的に学ぶことができるのではないかと考えた。また、対話的な学びになる足掛かりにもなっていくようにしていきたい。

## 2 実践の位置付け

### (1) 小学校学習指導要領との関連

内容(2) 我が国の農業や水産業における食料生産について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア(ア) 我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解すること。

(イ) 食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解すること。

(ロ) 地図帳や地球儀、各種の資料を調べ、まとめること。

イ(イ) 生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。

(イ) 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。

本小単元では、米づくり体験を生かした問いを設定し、調べることを通して我が国の食料生産についての理解を深めることをねらいとしている。児童にとって身近な本小単元は、高い意欲をもつのに適していると考えられる。

### (2) 実践のポイントの学習評価との関連

・評価のための授業にならないための、指導に生かす場面と評価を記録に残す場面の設定  
学習評価の側面である「指導に生かす」と「記録に残す」ことの2点を設定した実践を行っていく。

単元前半の「つかむ」場面（第1時、第2時）では、資料から疑問をもち、学習問題を設定する活動のため、評価したことを「指導に生かす」場面とし、単元中盤の「調べる」場面（第3時、第4時）では、評価したことを「記録に残す」場面とし、単元計画を作成した。

一般的には、「記録に残す」場面は、単元後半が多いが、ICT機器の特長である保存することを活用、蓄積していき、本実践では、評価していく。

・努力を要する状況（C）の児童に対する指導、支援

「調べる」場面では、資料を読み取ることに苦手な児童がいた。資料を読み取る際には、机間指導を行いながらポイントを示したり、動画を見る前には何に注目したらよいか事前に指導したりして、資料を読み取りやすくするよう支援を行った。また、自分の考えを再度練り直すときは、ICT機器の友達の記述を参考に、まとめたり振り返ったりしてもよいと声をかけた。

## 3 実践の内容

### (1) 小単元の目標と評価規準

我が国の農業について、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめ、農業に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、社会の一員として、これからの農業の発展について考えようとする態度を養う。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて、地図帳や地球儀、各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、食料生産に関わる人々の工夫や努力を理解している。</p> <p>②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。</p>	<p>①生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見いだし、食料生産に関わる人々の工夫や努力について考え表現している。</p> <p>②食料生産の仕事の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて、食料生産に関わる人々の働きを考えたり、これからの農業などの発展について、学習したことを基に、消費者や生産者の立場などから多角的に考えたりして、適切に表現している。</p>	<p>①我が国の農業における食料生産について、予想や学習計画を立て学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>②学習したことを基に、消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの農業などの発展について、自分の考えをまとめようとしている。</p>

(2) 指導計画と評価計画（9時間）

※網掛けは評価した結果を記録に残す場面

○内の数字は時間を表す。

知：知識・技能 思：思考・判断・表現

< >内は評価の方法を表す。

態：主体的に学習に取り組む態度

	学習活動・学習内容	評価の観点 内容・方法	資料	米づくりの学習 (総合的な学習の 時間との関連)
つ か む	<p>① 米づくりの仕事の様子と米づくり体験の様子を比べ、疑問をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米づくり体験で行ったこと以外にも米づくりには仕事や作業がたくさんあること</li> </ul> <p><b>実践のポイント(1)</b></p>	<p><b>態①</b> 米づくりの仕事の様子に興味をもち、主体的に問いをもとうとしている。</p> <p>&lt;発言・ノート&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米づくり体験の様子の写真</li> <li>・農作業ごよみ</li> <li>・米づくりの仕事の様子の写真</li> </ul>	<p>①オリエンテーション (活動内容・自分のめあて等)</p>
	<p>② 学校で収穫した米の量と山形県(庄内平野)で収穫できる米の量を比べて、疑問をもち、学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で収穫した米の量よりも庄内平野では多く効率よく生産していること</li> <li>・学習問題を考えること</li> </ul> <p><b>実践のポイント(1)</b></p>	<p><b>思①</b> 疑問を考え、学習問題を見いだしている。</p> <p>&lt;発言・ノート&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と庄内平野の米の生産量がわかる表(10aあたり)</li> <li>・庄内平野の写真</li> </ul>	<p>②お米についてインターネットを使って調べる。 (種類、育てる時期など)</p>
<p>学習問題</p> <p>農家の人々は、たくさんのお米をどのように生産しているのだろうか。</p>				

調べる	<p>③ 米づくりのさかんな地域の地形や自然の特色について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・庄内平野では広い平野を生かし米づくりを行っていること</li> </ul> <p><b>実践のポイント(2)</b></p>	<p><b>知①</b> 資料から米づくりがさかんな地域の自然条件を理解している。</p> <p>&lt;発言・ノート・タブレットによる記述&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庄内平野の土地利用図</li> </ul>	<p>③～⑨ 米作り体験 (5月～6月)</p> <p>1 浮き実取り (種もみを選ぶ)</p> <p>2 種まき (苗を育てる)</p> <p>3 田植え</p>
	<p>④ 米の生産性や品質を高める工夫や努力を考え、農家を支える人たちと協力して米づくりを行っていることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な機械を使い、効率的な作業をしていること</li> <li>・地域の人々やJAなどと協力して作業していること</li> </ul> <p><b>実践のポイント(2)</b></p>	<p><b>知①</b> 米の生産性や品質を高めるための工夫や努力を理解している。</p> <p>&lt;発言・ノート・タブレットによる記述&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米づくりの移り変わり</li> <li>・米づくりの労働時間の変化</li> </ul>	
	<p>⑤ 米が産地から店に運ばれるまでの経路を調べ、費用と価格との関係を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運輸の働きによって、全国に米が届けられること</li> <li>・米の値段には輸送や販売などの費用も含まれていること</li> </ul>	<p><b>知②</b> 運輸の働きによって、米が消費地に届けられ、国民生活を支えていることを理解している。</p> <p>&lt;発言・ノート&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庄内平野の米が全国にどこまで</li> </ul>	<p>⑩⑪稲の観察</p>
まとめる	<p>⑥ 調べたことを関係図に整理し、学習問題の結論を考え、表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習問題の結論を考えること</li> </ul> <p><b>学習問題の結論</b></p> <p><b>農家の人々は、その土地の自然条件に合わせ、いろいろな工夫や努力を生かして、たくさんの品質のよいお米を生産している。</b></p>	<p><b>思②</b> 調べたことを基に、学習問題の結論を考え、表現している。</p> <p>&lt;ワークシート&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係図</li> </ul>	<p>⑫～⑬ 米作り体験 (10月)</p> <p>4 稲刈り</p> <p>5 脱穀</p>
生かす	<p>⑦ 農業にはどのような問題があるか、資料をもとに調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産調整を行っていること</li> <li>・農家数の減少や高齢化が問題となっていること</li> </ul>	<p><b>態①</b> 農業の現状や課題について意欲的に調べようとしている。</p> <p>&lt;観察・ノート&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米の生産量と消費量の変化</li> <li>・農業で働く人数の変化</li> </ul>	<p>⑭～⑰ 米作り体験 (11月)</p> <p>6 わら細工作り</p> <p>7 収穫感謝祭</p>
	<p>⑧⑨ 学習したことを基に、これからの農業の発展について、自分の考えをまとめ、専門家(町役場の方)に提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをまとめること</li> <li>・自分の考えを提案すること</li> </ul>	<p><b>態②</b> 農業の発展について、自分の考えをまとめようとしている。</p> <p>&lt;観察・ノート&gt;</p> <p><b>思②</b> 農業の発展について、自分の考えをまとめ、適切に表現している。</p> <p>&lt;ワークシート&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲストティーチャー (町役場の方)</li> </ul>	<p>⑱～㉕ 今までの体験を振り返り、お米について自分の考えをまとめ、発表する。</p>

#### 4 実践結果と考察

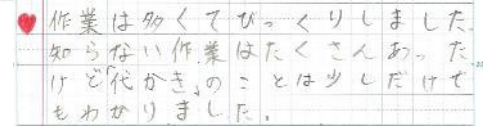
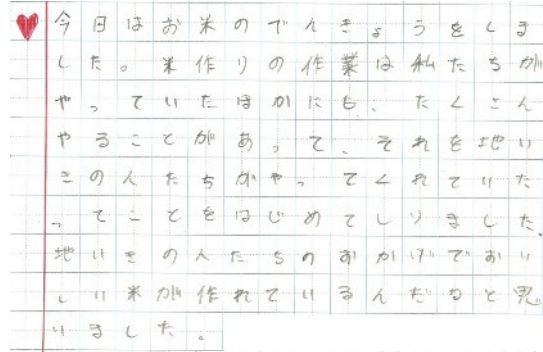
##### (1) 米づくり体験を生かした問いを生み出す

第1時では、まず自分たちが行った米づくりの体験の写真（田植え、稲刈り、脱穀等）を提示した。自分たちが行った活動の間には、どのような活動があるか予想し、「種まき」「乾かす（乾燥）」「水の調節」などの意見が出た。教科書にある「農作業ごよみ」を分割して、黒板に貼ったところ、多くの児童が驚いた様子であった。

（「農作業ごよみ」の資料を提示して）

- ・ええ！すごい数の作業がある！
- ・「種もみを選ぶ」ってどういうこと？
- ・自分が予想した作業があった！
- ・「脱穀」で終わりじゃないの？
- ・作業は3つしかないと思ったのに。
- ・こんなに細かく作業があるとは知らなかった。

【児童の発言・つぶやきの例】



【児童のふりかえりの例】

第2時では、学校でとれる米の量と山形県（庄内平野）の米の生産量（10aあたり）を比較した。自分たちの米づくり体験よりもはるかに多い山形県（庄内平野）の生産量を知り、学習問題について話し合いをした結果、「庄内平野は、どうしてお米がたくさんとれるのだろうか」を設定した。そして、学習問題に対する予想を付箋や短冊を使って考え、学級で共有し、まとめた。



【板書の様子、児童から出た学習問題に対する予想の例】

##### 1 気候・地形

- ・川が近い
- ・日当たりがよい
- ・雨、雪が多い
- ・田を大きくしている

##### 2 米の作り方（作業）

- ・世話のしかた、取り方がちがう
- ・手作業から機械になった

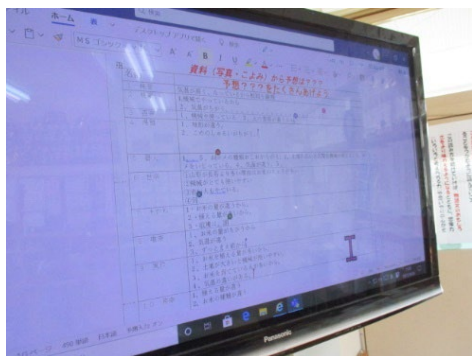
##### 3 仕事をする人

- ・仕事をする人が多い
- ・農家以外の人もいる？

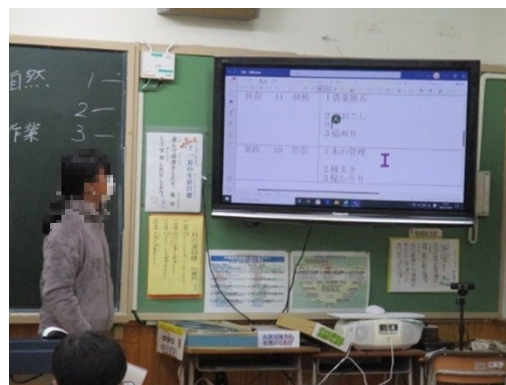
単元の導入で自分たちの体験に関する資料提示を行ったことで、社会的事象への興味関心を高め、意欲的に学習に取り組むことができたと考えられる。また、既存の知識を揺さぶる資料を提示することで、一人一人が問題意識をもつことができたと考えられる。



## (2) ICT機器を活用した自分の考えの発信や振り返りの活動



第3時では、庄内平野の自然について調べた。自分で教科書や資料集等で調べた後、一人一台タブレットを使い、調べた結果を書き込んだ。本校は、「Microsoft Teams」を使用している。児童と教師のタブレットがつながっているため、自分の書き込みが友達の画面やテレビモニターにも映るため、一目でどのような意見を友達が調べ、考えたのかが把握しやすい。発言があまり好きでない児童も夢中になりながら、自分の意見を発信することができていた。



【タブレットに意見を書き込んでいる様子・発表している様子】

第4時では、農家の人々の工夫や努力について調べた作業の機械化や品種改良について、調べ、自分の意見を発表した。単に発表するだけでなく、友達の意見から、「〇〇さんの意見をくわしく知りたい。」や「〇〇さんが書き込んだこれだけ・・・」と、疑問を投げかける児童がいて、話し合いが活発になった。

ICT機器を活用することで、自分の意見を発信しやすくなった。特に、発表などが苦手な児童も意欲的に意見を発信することができた。一部の児童の意見だけでなく、学級全員の意見を短時間で把握することができた。児童の意見を短時間で把握することで、疑問をもち話し合いのきっかけになることが増えた。

## 5 研究の成果と今後の成果

### <成果>

- ・「つかむ」場面において、体験活動を生かした資料を提示したり、提示の仕方を工夫したりすることで、児童の問題意識を高め、その後の学習に主体的に取り組むことができた。
- ・「調べる」場面において、ICT機器を活用し、自分の考えを発信や振り返りの活動を行うことは、学習内容に対して主体的に調べることができた。また、友達の意見から、対話的な学びにつながる足掛かりにもなっていた。

### <課題>

- ・学習問題等を話し合うときに、友達の意見をつなげることに課題が見られた。  
(話し合いの方法の検討・見直し)
- ・ICT機器の操作等に時間がかかり、他の単元に影響が出てしまった。  
(内容・活用時期の精選や教科横断的な視点での計画の見直し)